

大齋節第4主日特禱

恵み深い父なる神よ、み子はすべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。どうか命のパンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

旧約聖書 ヨシュア記5章9－12節

9 主はヨシュアに言われた。「今日、私はあなたがたからエジプトでの恥辱を取り除いた。」そのため、その場所はギルガルと呼ばれ、今日に至っている。10 イスラエルの人々はギルガルに宿営していたが、その月の十四日の夕方、エリコの平野で過越祭を祝った。11 過越祭の翌日に当たるちょうどその日に、彼らは土地の産物を種なしパンや炒り麦にして食べた。12 彼らが土地の産物を食べた翌日からマナは絶えた。もはやイスラエルの人々にマナはなく、彼らはその年、カナンので収穫されたものを食べた。

詩 編 第32編

- 1 幸いな者 || 背きの罪を赦され、罪を覆っていただいた人
- 2 幸いな者 || 主に過ちをとがめられず、その霊に欺きのない人
- 3 あなたに沈黙していたとき || 一日中、私は呻き、骨も朽ち果てました
- 4 昼も夜も御手は私の上に重く || 夏の暑さに気力も衰え果てました
- 5 私はあなたに罪を告げ、過ちを隠しませんでした。私は言いました「私の背きを主に告白しよう」と || するとあなたは罪の過ちを、赦してくださいました
- 6 このゆえに、忠実な人は皆、時に応じてあなたに祈ります || 荒ぶる大洪水も、その人に及ぶことはありません
- 7 あなたこそ、私の隠れ場 || 苦しみから私を守り、救いの盾で囲んでくださいます
- 8 私はあなたに悟りを与え、歩むべき道を示そう || あなたの上に目を注ぎ、諭しを与え

よう

9 あなたがたは、分別のない馬やらばのようであってはならない || それらをくつわと手綱で御して、あなたに近づけないようにせよ

10 悪しき者には痛みが多い || 主に信頼する人は慈しみに囲まれる

11 正しき人よ、主によって喜べ、喜び躍れ || 心のまっすぐな人は皆、喜び歌え

使徒書 コリントの信徒への手紙二 5章16－21節

16 それで、私たちは、今後誰をも肉に従って知ろうとはしません。かつては肉に従ってキリストを知っていたとしても、今はもうそのように知ろうとはしません。17 だから、誰でもキリストにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去り、まさに新しいものが生じたのです。18 これらはすべて神から出ています。神はキリストを通して私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに授けてくださいました。19 つまり、神はキリストにあって世をご自分と和解させ、人々に罪の責任を問うことなく、和解の言葉を私たちに委ねられたのです。20 こういうわけで、神が私たちを通して勧めておられるので、私たちはキリストに代わって使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神の和解を受け入れなさい。21 神は、罪を知らない方を、私たちのために罪となさいました。私たちが、その方において神の義となるためです。

福音書 ルカによる福音書 15章1－3、11b－32節

1 徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。2 すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを受け入れ、一緒に食事をしている」と文句を言った。3 そこで、イエスは次のたとえを話された。

「ある人に息子が二人いた。12 弟のほうが父親に、『お父さん、私に財産の分け前をください』と言った。それで、父親は二人に身代を分けてやった。13 何日もたたないうちに、弟は何もかもまとめて遠い国に旅立ち、そこで身を持ち崩して財産を無駄遣いしてしまった。14 何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。15 それで、その地方に住む裕福な人のところへ身を寄せたところ

ろ、その人は彼を畑にやって、豚の世話をさせた。16 彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいほどであったが、食べ物をくれる人は誰もいなかった。17 そこで、彼は我に返って言った。『父のところには、あんなに大勢の雇い人がいて、有り余るほどのパンがあるのに、私はここで飢え死にしそうだ。18 ここをたち、父のところに行って言おう。『お父さん、私は天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。19 もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。』』20 そこで、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。21 息子は言った。『お父さん、私は天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』22 しかし、父親は僕たちに言った。『急いで、いちばん良い衣を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足には履物を履かせなさい。23 それから、肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。24 この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。25 ところで、兄のほうは畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りの音が聞こえてきた。26 そこで、僕の一人を呼んで、これは一体何事かと尋ねた。27 僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』28 兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。29 しかし、兄は父親に言った。『このとおり、私は何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、私が友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。30 ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身代を食い潰して帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』31 すると、父親は言った。『子よ、お前はいつも私と一緒にいる。私のものは全部お前のものだ。32 だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。喜び祝うのは当然ではないか。』』